

## 特集 仮想

# DC

### ドリームチャレンジ賞

# ドリームチャレンジ!

広島大学校友会が実施する事業の一つに「ドリームチャレンジ(DC)賞」があります。校友会員が学生から提案を募り、審査で採択されたものに助成金を授与するもので、広島大学同窓会との共催。毎年応募して活動資金を獲得しているクラブもあれば、「~~研究資金に~~」と**思っているチーム**や「企画をカタチにしたい」とチャンスをさがっている個人もいるはず。

DC賞応募のAからZを審査委員長と受賞経験者のアドバイスをもとにシミュレーションしてみました。

直接話を  
聞きたい専門家  
がいるんだ!

ほかの人にも  
聞いてもらえる  
トークセミナーを  
開こう!

でも、  
お金がかかるし  
無理かなあ...

DC賞に応募して  
支援を  
してもらったら  
どうかしら

### 仮想応募者

広大生 あゆみ  
広大生 ユウタ

同じゼミに所属する2人。課題について話しているうちに、ある本を執筆した先生に直接話を聞きたいと思うようになりました。しかも、先生は広大の先輩。思い切って先生にメールをしてみると「会ってお話しましょう」とうれしい返事。

「先生と話せるならゼミのみんなにも声をかけよう」とあゆみが言い出し、「先生のトークセミナーをやるう!」と、話がどんどんふくらんでいきました。

「スケジュールが合えば、広島に行ってもいい」という先生の言葉に、2人は「ドリームチャレンジ賞に応募しよう」と決心したのでした。

イラスト:  
妹尾心(総合科学部4年)

DC賞審査委員長

桂 彬真さん

工学部機械工学科卒業。体育会、体育会同窓会の設立に中心的な役割を果たし広島大学同窓会理事も務める。現在広島大学校友会常任理事。

第9回DC賞受賞

舛田 菜緒さん

東広島市出身、法学部4年。国際協力やボランティアに関心を持っていた。広大入学後、ネパール大地震被災地への募金活動に参加するが、継続的な支援の必要性を痛感し、独自の支援活動企画でDC賞に応募した。

# 応募要項発表(平成29年度は6月)

DC 賞応募要項が学生生活のポータルサイト「もみじ」に掲載されます。目標に向けて資金の助成を希望する学生(校友会員)の活動がここからスタートします。

POINT

1

## 応募要項をしっかりとチェックしよう

応募資格は?  
対象となる活動?  
活動期間は?  
締切は?

POINT

2

## 応募申請書の様式に沿って書く

DC 賞は申請書で審査し採択プロジェクトを決定します。次の内容が分かるよう、申請書の項目にしたがって記入します。

どんな活動をしたいのか  
どんなスケジュールで具体的な活動を進めるのか  
助成金をいくら申請するか  
資金をどのように集めてどう使うか



POINT

3

## 期日までに申請書を提出する

広島大学同窓会事務局宛にeメールで提出します。 **第16回は広島大学校友会宛てもeメールで提出**

## 審査発表(平成29年度は9月)

# 計画にそって実際の活動が始まります。

支援が決まったプロジェクトの代表者に助成金を贈る授与式を行い、プロジェクトの指定口座に助成金が振り込まれます。その後計画を実施に移して翌年9月末までに完了させます。

POINT

4

## 活動の記録をとっておこう。

DC賞は広島大学校友会の資金を活動費として提供しますので、活動と収支の報告をしていただきます。必ず記録に残し、資金の出納は領収書を保存しておきましょう。

先生と打合せをして  
トークセミナーの日時を決める。  
会場を決めてポスターを作り  
聴講する人を集める。  
先生のチケットと宿泊の手配をする。  
当日の会場で必要な  
マイクやプロジェクターを用意する。  
やることがいっぱい!  
……抜けてることはないかな。

公的なお金で  
活動するんだから  
当然だよ

スマホで  
いろいろな写真を  
撮っておけば  
いいね

活動を  
記録するのが  
めんどくさいな

審査委員長から 企画を実現するためには計画と実行力、特に人を動かす折衝力やリーダーシップが必要です。プロジェクトの実現を通して、こうした力が養われていくはずですよ。

受賞者からアドバイス 申請時に完ぺきな事業計画ができていたわけではなかったし、実際にプロジェクトを進める段階になってもうまく行かないことの方が多いので、その都度計画を見直し、作り直ししながら進めました。

POINT

5

## 報告発表までがプロジェクトです。

プロジェクトが終了したら報告書をまとめ報告会で発表します。  
審査員や受賞者を前にプレゼンテーションします。

16回ではWEB上での活動実績報告を予定

プロジェクトも  
使って  
発表するんだね

緊張しそうだなあ

受賞者からアドバイス 報告では「できたこと」と「できなかったこと」を分けました。反省も多々ありますが、今後もプロジェクトを継続して当初の目標を実現させたいと、報告に付け加えました。

舛田さんの報告用プレゼン資料

審査委員長から DC賞のコンセプトは「夢に挑戦する活動を支援すること」。夢を持つこと、夢に挑戦することが重要で、成果を評価するものではありません。そして、できればプロジェクトを後輩たちが受け継いで継続してほしいと願っています。

「ドリームチャレンジ賞」のスケジュールは年度により異なる場合があります。「応募要項」をご覧ください。

# ドリームチャレンジ賞、2つの視点



2015年4月、ネパールは大地震で大きな被害を受けました。私は募金活動を手伝ったのですが、一時的なボランティアより長期的な支援が必要ではないかと感じました。そのために、ネパールの人々の雇用を創出し収入を増加させる「ソーシャルビジネス」を企画したのです。ネパールで製作した商品を日本で販売し収益をネパールに還元するプロジェクトで、10年前にバングラデシュでソーシャルビジネスを立ち上げた女性と、慶應大学の学生団体の活動がヒントになりました。

DC賞から助成金をいただき、ネパールで買い付けた商品を大学で販売することはできましたが、ビジネスと言えるほどには至っていません。でも、ネパールの復興や発展をビジネスで応援する体制をなんとか確立させたいと思っているので、プロジェクト終了後も活動を続けています。

プロジェクトを通して学んだことは多々ありますが、さまざまな方と出会うことができたのが何よりもよかったです。いつになるかわかりませんが、将来はネパールでビジネスを立ち上げたいと思っています。

舛田さんは現在ネパールの商社で半年間のインターンシップ中。メールでの取材となりました。



「大学に活気を、学生に活力を」というキャッチフレーズで広島大学同窓会が企画し、資金集めのために同窓会大会を

佐工文 じく じく 【 壺v 鹿 c 洞